

建築保存を目的としたクラウドファンディングの実態と課題

－クラウドファンディング実施者へのヒアリングを通して－

日大生産工(院) ○櫻田 祐理
日大生産工 亀井 靖子

1. はじめに

昨年度の研究¹⁾では、READYFORで実施された建築保存プロジェクト79件の支援総額と支援人数の傾向や特徴的なプロジェクトを明らかにした。今年度の8月に発表した研究²⁾では、建築空間を体験するリターン（以下建築体験リターンとする）の支援傾向や建築体験リターンを採用しているプロジェクトの傾向を明らかにした。今回の研究では成功したクラウドファンディングの実施者にヒアリングを行い、実施者の視点から建築保存を目的としたクラウドファンディングを調査する。

本研究はヒアリングを通して、他にないリターンや建築保存に効果的なリターンと建築保存にクラウドファンディングを利用する良さや事前に考慮すべき点などを実施者の意見から明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

本研究では、今までの研究の調査対象から建築体験リターンの貢献度・支援人数・支援人数割合の全てが目標値以上であった団体「旧摩耶観光ホテル保存プロジェクト」、クラウドファンディングを2回以上成功させた団体「中銀カプセルタワービルA606プロジェクト」と「公益財団法人 大谷美術館」の計3件に対し、オンラインでヒアリング調査を実施した。以下それぞれの団体を「旧摩耶観光ホテル」、「中銀カプセルタワービル」、「大谷美術館」と記載する。調査項目は団体基本情報、クラウドファンディング全般の情報、リターン情報とした。クラウドファンディングを2回以上成

功させた団体には、複数回実施したことに関することも追加している。表1はヒアリング対象団体3件の概要を、表2はヒアリング調査項目を示す。

3. 対象プロジェクトの概要

3-1. 旧摩耶観光ホテル

「近代化遺産を未来へ、旧摩耶観光ホテルをみんなの力で守りたい！」³⁾ プロジェクトは、旧摩耶観光ホテルの登録有形文化財への登録を目指しており、建築体験リターンによって多くの支援を得たプロジェクトである。プロジェクトを通して、文化財申請に必要な資料のための調査や資料作成、防水カバーの施工等を行い、旧摩耶観光ホテルを後世に守り継ごうとしている。特徴は目的が文化財登録であること、対象建築が廃墟であること、特別な体験を提供するリターンである保存調査同行リターンを採用していることである。旧摩耶観光ホテルは廃墟であるからこそ建物のあり方がプロジェクトの方針と異なる人々もいた*¹⁾。しかし旧摩耶観光ホテルを「見たい」気持ちは、建物のあり方への考えに関わらずあったため、様々な考えを持つ人から建築を見ることのできる保存調査同行リターンで支援を受けた。そして保存調査同行リターンを通して、プロジェクトの方針とは違う人々からプロジェクトの理解を得ることに成功している。このプロジェクトは2017年に実施され、ホテルは2021年に登録有形文化財となった。

表1 ヒアリング調査団体3件の概要

団体特徴	建築体験リターンで支援を多く集めた団体	プロジェクトを2回以上成功させた団体			
		中銀カプセルタワービルA606プロジェクト		公益財団法人 大谷美術館	
団体名	旧摩耶観光ホテル保存プロジェクト	中銀カプセルタワービルA606プロジェクト		公益財団法人 大谷美術館	
対象建築	旧摩耶観光ホテル	中銀カプセルタワービル		大谷美術館	
実施回	1回目	1回目	2回目	1回目	2回目
プロジェクト名	近代化遺産を未来へ、旧摩耶観光ホテルをみんなの力で守りたい！	解体迫る！ 中銀カプセルタワービル 全戸調査記録+動くカプセル で保存へ	中銀カプセル解体！ 救出した7カプセルで 動く建築と メタボリズム実現へ	大正から続く 和洋の美しい調和を未来へ。 大谷美術館の 運営にご寄付を。	文化財を未来に託す。 大谷美術館、 石塀修繕と計画策定に ご支援を。
プロジェクト目的	文化財登録	カプセルの保存	カプセルの保存	美術館の継続運営	石塀修復と今後の計画策定
資金使用用途	申請に使用する資料のための調査・資料作成 防水カバーの施工等	アスベスト対策費 扉の開錠作業費	カプセルの保存運搬・搬入	運営費	改修費、計画策定費
目標金額(円)	5,000,000	1,500,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
総支援額(円)	7,277,000	4,063,000	4,610,000	10,071,000	3,932,000
総支援人数(人)	349	308	188	523	175
ヒアリング対象者	プロジェクト代表者 計1名	プロジェクト代表者 計2名		美術館館長、学芸員 計2名	
ヒアリング実施日	2024年5月23日	2024年7月5日		2024年7月12日	

The actual situation and issues of crowdfunding for architectural preservation
－ Through interviews with crowdfunding initiator －

Yuri SAKURADA and Yasuko KAMEI

表2 ヒアリング調査項目

貴団体について	所属人数と所属者の属性
	設立の経緯
	活動内容・活動状況
クラウドファンディングについて	数多くのクラウドファンディングサイトの中からREADYFORを選択した理由。
	クラウドファンディングを利用した理由。
	クラウドファンディングの成功の工夫。
	クラウドファンディングのメリット・デメリット。
	クラウドファンディングを行ったことで起きた効果・変化。
	建築保存とクラウドファンディングの相性や課題。
プロジェクトを複数回実施したことについて	1回目から2回目の変化。
	2回目を実施した理由。
	複数回プロジェクトを実施したことの良さや苦労。
リターンについて	リターンの種類の決定と支援者層について。
	取り入れてよかった他の建築保存プロジェクトでも生かせそうなリターン。

3-2. 中銀カプセルタワービル

1回目のプロジェクト「解体迫る！中銀カプセルタワービル全戸図録調査記録＋動くカプセルで保存へ^{*2)}」⁴⁾と2回目のプロジェクト「中銀カプセル解体！救出した7カプセルで動く建築とメタボリズム実現へ⁵⁾」は、中銀カプセルタワービルのカプセルの保存を目的としており、2回とも成功している。特徴は、現存しない建物への活動^{*3)}であることとカプセルの図面・写真・パーツリスト集などを掲載した建築資料のリターンを採用していることである。中銀カプセルタワービルは、1回目はアスベストの危険性から、2回目は現存していないことから、実際に建築空間を体験することが難しかった。しかしオンライン見学会リターンを用意することで少しでも建築を体験できる機会をつくっている。建築資料のリターンは、プロジェクトの中で実測した記録を実施者がまとめ上げ、リターンとするものである。実測から資料としてまとめるまで多大な労力がかかるが、他にはない貴重なリターンである。

3-3. 大谷美術館

1回目のプロジェクト「大正から続く和洋の美しい調和を未来へ。大谷美術館の運営にご寄付を。」⁶⁾と2回目のプロジェクト「文化財を未来に託す。大谷美術館、石堀修繕と計画策定にご支援を。」⁷⁾は、大谷美術館や銅御殿の保存を目的としており、2回とも成功している。特徴は、1回目はコロナ禍下の大谷美術館の運営費の支援を募っていたことに対し、2回目は銅御殿の石堀の改修費という建築自体ではなく、建築の周辺設備に対する支援を募っていたことである。

4. 特徴的なリターン

3団体の5つのプロジェクト^{*4)}には、最大19種類、最小8種類のリターンが用意されていた。そのうち対象建築に関連したリターンは、全てのプロジェクトのリターンで5割以上を占めていた。対象建築に関連したリターンの内容は、建築内での見学や食事、建築の図面

などの資料、建築の写真やロゴ・文字などを利用したはがきや缶バッジなどのグッズである。

3団体の対象建築に関連したリターンの中でも、他に例を見ないものや、建築保存に直結するもの、リターンの設定で参考になるものを示す。

4-1. 特別な体験を提供するリターン

旧摩耶観光ホテルの保存調査同行リターンは、単なる「見学」とは違い支援者が自分たちで建物の「調査」を行う特殊な建築空間体験リターンである。このリターンはクラウドファンディングの成功要因としても挙げられており、支援者の建物を見たいニーズに応えることで人を集めつつ、調査という特別な体験を提供することで支援者自らに建物の価値を発見してもらう機会を生んでいた。その中で、プロジェクトとは異なる思想を持つ人々の価値観を変化させ、彼らを同志としたリターンでもある。特別な体験を提供したからこそプロジェクトに大きな影響を与えるリターンとなったと考えられる。

4-2. 建物の記録を残すリターン

中銀カプセルタワービルのプロジェクト内で作成された建築資料は、クラウドファンディングの成功要因に挙げられたリターンでもある。リターンとすることで調査して終わるのではなく、最後まで資料として仕上げるきっかけとなる。それにより、修繕や改修などの保存時に必要な図面をクラウドファンディングの過程で用意することができる。

オンライン見学のメリットは、いつでも実施することができること、各自が都合に合わせて参加できること、遠くの人も参加しやすいこと、後からも見返すことができること、映像や説明を残すことができることである。特に映像や説明を残すことは、建物が残っている間に記録を残す機会にもなる。

このようにプロジェクト内で作成する建築資料とオンライン見学会は、資金以外の意味でもクラウドファンディングが建築保存に大きく貢献できる取組みであ

る。ただし、建築資料は準備の大変さから実施者に大きな負担がかかる可能性を、オンライン見学会は実地見学会の人数減少や手軽だからこその緩慢さなどを考慮する必要がある。

4-3. 普段の取組みに付加価値を加えたりターン

大谷美術館は、普段行っているツアーと異なり、少人数で、非公開部分の見学もすることができるプライベートツアーをリターンとしている。それ以外にも普段の取組みでは行っていない建築空間での食事リターンなども行っている。クラウドファンディングという限定的なものであるからこそ新しい取り組みの採用検討も可能となる。そのためリターンに普段の活動に付加価値を加えたものも用意し、支援者の反応を見ることで今後の取組の参考にすることも可能であると考えられる。

5. 成功事例の団体の共通要素

ヒアリング内容を項目ごとに分けた結果、団体同士に共通要素があることがわかった。その中でもクラウドファンディングの特徴がよく表れているものや実施前に考慮すべきものを挙げる。表3は3団体の共通要素

と団体の意見を、表4は旧摩耶観光ホテルと中銀カプセルタワービルの共通要素と意見を、表5は旧摩耶観光ホテルと大谷美術館の共通要素と意見を示す。

5-1. 3団体の共通要素

3団体の回答の共通要素はメリットの「広報」・「認知向上」と課題の「支援者との理解や考えの差」の3つである。

「広報」に関する意見には、クラウドファンディングは情報を届けるための良い仕組み・プラットフォームである、最初にプロジェクトを知ってもらいきっかけになる、イベントや建築の情報の発信を行う場となりファンが増えた、などがあがった。どの団体もクラウドファンディングが建築の情報発信媒体として有用であると考えている。

「認知向上」は、旧摩耶観光ホテルと大谷美術館が「建築」に対して、中銀カプセルタワービルが「団体」に対して実感している。対象は違うものの情報発信がうまくいった結果得られた効果である。

「支援者との理解や考えの差」には、旧摩耶観光ホテルはプロジェクトとは違う建築保存のあり方の考えを持つ人々への対応の難しさを、中銀カプセルタワー

表3 3団体の共通要素と団体の意見

3団体の共通要素		旧摩耶観光ホテル	中銀カプセルタワービル	大谷美術館	
メリット	広報	クラウドファンディングは情報を届けるための良い仕組み・プラットフォームである。	最初にプロジェクトを知ってもらいきっかけになる。	クラウドファンディングがイベントや建築の情報の発信を行う場となった。	
	認知向上	建築	建築が全国的に知られるようになり、ファンを増やすきっかけになった。	—	認知の向上により来観客が増加している。
		団体	—	実施前まであまり知られていなかった団体の認知が向上した。	—
建築保存プロジェクト	支援者との理解や考えの差がある可能性	建築に対する考えの差	建築のあり方に対する考えが人それぞれ違う。	—	
		建築に対する理解の差	—	一般の人にはなぜ時間がかかるのかわからない。建築によりすぎた話をすると理解してもらうことが難しくなる。	建築本体に関わらない周辺整備の必要性などが伝わりにくい。

表4 旧摩耶観光ホテルと中銀カプセルタワービルの共通要素と意見

旧摩耶観光ホテルと中銀カプセルタワービルの共通要素		旧摩耶観光ホテル	中銀カプセルタワービル
成功要因	リターン設定	保存調査同行リターンの設定。	高額ではあるが貴重な資料のリターンの設定。
デメリット	支援者の期待に応えるプレッシャー	通常よりも高額な価格で支援を受けている。支援者によって求めていることが異なる。	支援者の期待がプレッシャーになる。
資金調達手段のクラウドファンディング	限定的な場面で使用しやすい	節目で利用しやすい。	緊急でお金を集めなければいけなくなった際に使える。
	長期利用に向かない	日々の運営資金を集めるなど継続的な資金支援には適さない。	継続支援としての活用は難しい。

表5 旧摩耶観光ホテルと大谷美術館の共通要素と意見

旧摩耶観光ホテルと大谷美術館の共通要素		旧摩耶観光ホテル	大谷美術館
利用理由	情報発信	クラウドファンディングという情報発信力の高いものを利用したかった。	美術館の現状を知ってもらいたかった。多くの人へ報告する意味もあり、クラウドファンディングでやるべきだと考えた。
メリット	広報	同上。	同上。
	認知向上	同上。	同上。
成功要因	情報拡散	メディア・Webメディアへの取り上げ。	テレビやブログでの取り上げ。美術館や図書館などの公的施設へのチラシの設置。プレスリリースの実施。
その他	今後の利用検討	耐震の調査を行う際に利用予定である。	3回目の利用を検討中である。

ビルと大谷美術館は建築への理解の差があるからこの説明の難しさや工夫の必要性を感じていた。建築の理解の差の内容としては、建築保存プロジェクトの進行速度が遅くなってしまふ感覚や周辺整備の必要性が伝わらないことが挙げられていた。特に建築保存プロジェクトに時間がかかってしまうことに関しては、数カ月で終わってしまうクラウドファンディングとのスピード感の違いに課題を感じ、すぐに用意できるリターンの重要性を考えてもいた。

5-2. クラウドファンディングの情報発信力

旧摩耶観光ホテルと大谷美術館の共通要素には、利用理由の「情報発信」、メリットの「広報」・「建築の認知向上」、成功要因の「情報拡散」、「今後の利用検討」がある。

旧摩耶観光ホテルはクラウドファンディングという情報発信力の高いものを使用したい思いから、大谷美術館は美術館の現状を知ってもらいたい・クラウドファンディングを通じて報告をするという思いからクラウドファンディングの利用理由に「情報発信」を挙げている。実施後の考えでは、クラウドファンディングのメリットに「広報」、「建築の認知向上」を挙げ、「今後の利用検討」もしていることから、どちらの団体も期待通りの効果を得たとわかる。成功要因には、「情報拡散」を挙げており、プロジェクト全体を通して情報発信が重要視されている。

5-3. リターン設定と支援者との関係

旧摩耶観光ホテルと中銀カプセルタワービルの共通要素には、成功要因の「リターン設定」と課題の「支援者の期待に応えるプレッシャー」がある。

2団体は共に、特殊で挑戦的なリターンである、建築調査を支援者が実際に行う保存調査同行リターンとプロジェクトの過程で実測したデータをまとめた建築資料のリターンを採用しており、それらのリターンを成功要因として考えている。どちらも建築の良さや支援者のニーズを十分に捉えたリターンであるといえる。しかし、旧摩耶観光ホテルは通常よりも高額な価格の支援を受けたことや支援者の要望が一樣ではないこと、中銀カプセルタワービルは自分達にとって重すぎるリターンを用意してしまったことから、支援者の期待に応えるプレッシャーを感じてもいた。

5-4. 資金調達の観点からのクラウドファンディング

旧摩耶観光ホテルと中銀カプセルタワービルは、クラウドファンディングが日々の運営資金を常時集めるなどの「長期利用に向かない」としており、クラウドファンディングへの認識が近い。しかしどちらの団体も、節目での利用や緊急でお金を集める場合には適しているとして、大きな目的がある際や緊急性を要する際に利用しやすいと考えている。そのためクラウドファンディングは限定的な場面で使用し、継続的な支援は別の方法考える必要性もある。

6. まとめ

クラウドファンディングは建築保存において資金集めの役割だけでなく、情報発信の役割もあることが分かった。建築保存には多くのファンの存在が必要不可欠であり、そのファンを生む機会をつくるクラウドファンディングは良い取り組みであると考えられる。しかし、長期利用には向かない点や支援者との理解や考えに差がある可能性などを事前に把握しておく必要がある。継続的な資金調達手段の検討や理解や考えの差を埋める工夫をすることがより多くの支援やスムーズなプロジェクトの進行につながると考える。

謝辞

本研究の調査にあたり、ヒアリング調査にご協力いただいた「旧摩耶観光ホテル保存プロジェクト」、「中銀カプセルタワービルA606プロジェクト」、「公益財団法人 大谷美術館」の皆様は心より感謝いたします。

本研究の調査に当たり、データ収集等にご協力いただいた日本大学生産工学部4年の土田きらら、室井美南（令和6年度）に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 櫻田祐理, 亀井靖子, 建物保存・再生におけるクラウドファンディングを利用した資金集めに関する研究, 第56回(令和5年度)日本大学生産工学部学術講演会, (2023)
- 2) 櫻田祐理, 亀井靖子, クラウドファンディングにおける建築普及に効果的な建築体験リターン, 2024年度日本建築学会大会, (2024)
- 3) READYFOR, 近代化遺産を未来へ、旧摩耶観光ホテルをみんなの力で守りたい! (2017年), <https://readyfor.jp/projects/mayakankohotel>, (参照2024-10-11)
- 4) READYFOR, 解体迫る! 中銀カプセルタワービル全戸図録調査記録+動くカプセルで保存へ (2021), <https://readyfor.jp/projects/capsuleA606> (参照2024-10-11)
- 5) READYFOR, 中銀カプセル解体! 救出した7カプセルで動く建築とメタボリズム実現へ, (2022), https://readyfor.jp/projects/time_capsule_2072, (参照2024-10-11)
- 6) READYFOR, 大正から続く和洋の美しい調和を未来へ。大谷美術館の運営にご寄付を。 (2021), <https://readyfor.jp/projects/otanimuseum>, (参照2024-10-11)
- 7) READYFOR, 文化財を未来に託す。大谷美術館、石堀修繕と計画策定にご支援を。 (2023), <https://readyfor.jp/projects/otanimuseum2023>, (参照2024-10-11)

注

- 1) 文化財の登録などを旨とする過程で廃墟に手を加えることを厭う人々は、プロジェクト参加前は残さなくていい・廃墟のままでもいいという考えを持っていた。
- 2) 中銀カプセルタワービルのカプセルを動かせる形で保存することで大学や美術館・博物館に移動させて多くの人とのシェアを考えている。移動できる建築とすることで黒川紀章の「動く建築」の思想の実現も目指している。
- 3) 中銀カプセルタワービルは、2022年に解体されたため、クラウドファンディング1回目(2021年7月)の実施の際には現存していたが、2回目(2022年11月)実施の際には現存していない。
- 4) 旧摩耶観光ホテルのプロジェクトで1件、中銀カプセルタワービルの1回目と2回目のプロジェクトで2件、大谷美術館の1回目と2回目のプロジェクトで2件の合計5件のプロジェクトが調査対象である。